

令和7年度 県立水海道第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	(1)教育方針 ①豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った生徒を育成する学校 ②伝統を継承しながらも柔軟に社会の変化に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる生徒を育成する学校 ③普通科・商業科・家政科が切磋琢磨し合い、それぞれの特長を高めて社会に貢献できる生徒を育成する学校 ④家庭や地域社会等と連携を深め、協働して持続可能な共生社会の実現を目指すとする生徒を育成する学校 (2)努力目標 ①・生徒の実態に即する適切な学習指導方法を工夫改善し、授業内容の充実を図る。 ・学習に対する自主的な姿勢の育成を図る。 ②・心の教育を充実し、規範意識の向上を推進する。 ・健康・安全教育を推進し、特別活動を通して協調精神を養成する。 ③・適性・能力・興味関心等、個々の生徒の実態に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を目指す。 ・望ましい勤労観や職業観の確立を目指すためキャリア教育を推進する。		
	昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標
本校は「キャリア重視型進学校」として普通科・商業科・家政科がそれぞれの特色を生かし、学習指導や進路指導、キャリア教育の充実に努めており、生徒の多様な進路希望に応じて一定の成果を収めている。生徒の能力を十分に発揮させ、より高い進路目標を掲げ実現させるためのさらなる学習指導や進路指導の充実が望まれる。基本的な生活習慣の身についた生徒が多いが、服装容儀や交通安全についての指導は今後も継続が必要である。平成28年度に全国大会三冠を果たしたハンドボール部を始めとした部活動も活発である。ホームページや緊急情報メール、また生徒が作成した学校PRビデオによる情報の発信も適切に行われており、開かれた学校づくりにさらに努めていきたい。	学力の向上	①授業や家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう、教科指導の工夫・改善に努め、魅力ある授業の展開を図る。 ②授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。 ③個別面談を学校全体の取り組みと位置づけ、学習意欲を高める面談指導の充実を図る。	B
	進路指導の充実	④生徒の進路意識を高め、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応する。 ⑤積極的な面接指導、的確な進路情報の提供、課外授業の充実に努める。 ⑥各学年に応じた進路行事や各学科の特性を生かしたインターンシップ等を通してキャリア教育を推進する。	B
	生活指導の充実	⑦毎朝の登校指導を行い、挨拶・声かけ運動の推進、毎日の清掃の徹底を図る。 ⑧豊かな心の育成を図り、服装・頭髪をきちんとさせるなど規範意識の高揚を図る。 ⑨安全教育、特に交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。	A
	特別活動の推進	⑩学校行事の企画・運営を生徒中心に行い、自主的、実践的な態度を養う。 ⑪魅力ある部活動を展開し、加入率75%を維持し活気ある学校にする。 ⑫キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。	A
	学校情報の積極的な発信	⑬ホームページや各種通信等により、教育活動の状況を積極的に発信する。 ⑭学校公開事業等を通して、開かれた学校づくりに努める。 ⑮さくら連絡網を適切に活用し、重要度の高い情報が確実に保護者に伝わるよう努める。	A
	働き方改革	⑯進路指導や学習指導の場面で業務の効率化を進めるとともに、全職員の連携により業務の分担・軽減を図る。 ⑰部活動においては、練習方法を工夫したり、交代で指導に当たるなど、従事時間の短縮に努める。	A
	授業改善	⑱ICTや板書、資料などを効果的に活用し分かりやすい授業に努める。 ⑲机間指導等しながら生徒の学習状況を把握し、適切な助言や支援をすることに努める。 ⑳授業満足度(全教員平均値)を3以上になるように努める。(KPI)	A

三つの方針		具 体 的 目 標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリ シー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①豊かな人間性を持ち、地域社会の中心として活躍できる人材の育成 ②自律と協和の精神を持ち、他者と協働できる、社会から求められる人材の育成 ③各分野の高度な知識技能を有し、スペシャリストとして牽引できる人材の育成	A	A	地域の関係機関や民間企業で必要とされる資質や能力の育成を図るとともに、地域社会の課題解決のために地域の人と協働的な活動や創造的な活動が必要である。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①普通科は、選択科目を多く取り入れ、多様な試験科目に対応し、希望大学への進路実現 ②商業科、家政科は専門性を高め、高度資格を有し、就職から大学進学までの進路希望実現 ③3学科横断的な学習活動とキャリア教育重視により、生徒の多様な進路希望実現	A		2学期制への変更と普通科のカリキュラムを見直したため、学力の向上と進路意識の向上に繋げていくことである。
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①本校の教育方針や、特色を理解し、本校への入学を強く希望する生徒 ②学習活動に積極的に取り組み、自己実現に向けて努力しようとする生徒 ③地域から愛される本校の生徒として、高い自覚を持ち、規律ある学校生活を送れる生徒 ④部活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動、ボランティア活動等に積極的に参加し、他者と協力し、豊かな人格の形成を目指す生徒	B		広報活動や活発化し、本校の教育方針や進路指導についてより深く理解を得る。商業科、家政科では、中学生及び中学校の先生方に専門的学習内容が学べること、普通科では、高いレベルの学校に合格できるようなカリキュラムや支援体制が整備されていることを周知していく必要がある。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の向上と入試に対応できる実力の養成を図る	基礎から応用へと段階的に学力を向上させる授業計画を作成し、学習目標が明確な授業を展開する。 ①②	B	B	学校または各教科・学年のグランドデザインに沿い、協働的に学ぶ授業や問題解決能力を培う授業を増やしていく。また、基礎学力が形成された生徒が、発展的学習や応用力、専門的学習に繋げていくことも課題である。
		各教科で計画的に課題提出や小テストを実施し、家庭学習の習慣化と家庭学習時間の伸張を図る。 ①②	B		
国語	基礎学力の定着と向上を図る	基礎学力の定着・向上のために各種小テストを実施、また授業に主体的に取り組めるよう工夫を凝らす。 ①②	A	B	小テストや課題等を継続的に実施し、授業と連動させることで基礎力と学習習慣の定着をはかる。国語におけるICTの活用について教科内でアイデアを共有し、効果的な授業を目指したい。
		ICTや板書、資料などを効果的に活用し、教材への興味関心を抱かせ、知的好奇心を育む。 ①	B		
地歴	基礎学力の向上と世界や日本の歴史的・地理的事象の学習を定着させる	基礎学力の定着と歴史的・地理的事象への関心を高める授業を展開する。 ①②	B	B	地理分野・歴史分野それぞれに興味・関心を持てるように意識し、授業内容を工夫していきたい。ICTを効果的に活用し、生徒が主体的に学ぶ姿勢をもたせたい。
		ICTや資料などを効果的に活用し、社会的事象の認識を深めさせる。 ①②	B		
公民	基礎学力の向上と現代の社会について主体的な学習態度を育てる	ICTなどを活用し、基礎学力の定着と社会の諸課題を考える力を養う。 ①②	B	B	政治や経済など現代社会の諸課題を自分のことと捉え、生徒が主体的に学ぶ意識を高めていきたい。ICTを効果的に活用しながら、生徒が自ら課題を設定し、解決の方策を考える授業展開を心がける。
		政治や経済の諸課題を協働的に考察し、その解決に向けた合意の形成をめざす。 ①②	B		
数学	基礎学力の向上を図る	小テストや課題等を活用し、生徒の家庭学習習慣の定着を図る。 ①②	B	B	・ICTの効果的な活用やグループ学習を実施することで、生徒の主体性や探究心の向上につながる授業改善を図る。 ・基礎学力の定着を図るために、小テストなどをこまめに実施する。
		教材や授業展開等を工夫し、数学の楽しさや良さを実感させるとともに、表現力の向上に努める。 ①②	B		
理科	基礎学力の向上と定着、科学的な能力の育成を図る	ICTを効果的に利用することで科学の基本的な概念や法則を理解させ、科学的に探究する方法を修得させる。 ②⑬	A	B	カリキュラム的に授業時数に余裕がなく、実験があまり実施できていない。ICT機器の活用により基礎科目の授業を充実させ、生徒の探究心をより向上させる。
		実験・観察を通して、科学的な見方や考え方を養う。 ①②	B		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	基礎体力の維持・向上を図り健康や安全に関する知識を高める	各種の運動を合理的に行う際に適切なアドバイスをするなどし、実践力を見につけさせるとともに自己の体力の高め方を学ばせる。②	B	B	近年、夏場の気温上昇で生徒の体調管理が難しくなる中で、自己の健康を管理し、生涯にわたり継続して楽しく運動に親しむ姿勢を身に付けさせられるように指導に努める。 また、授業時数の関係で年間指導計画の種目の見直しが必要であり、科会を通じて話し合っていきたい。
		個人や集団における健康の保持増進、将来に向けての基本的な生活習慣の確立をさせる。⑧	B		
芸術	芸術を愛好する心情と表現活動の向上を図る	生徒一人一人の個性に応じた指導を行い、技術の向上を図る。①	B	B	ICTを効果的に活用しながら生徒一人一人の個性に応じて感性を大切にし、表現力を高め、多様な授業を展開できるよう努める。
		鑑賞活動や創作活動を通して基礎的な技能と創造的な表現の力を伸ばす。①	A		
英語	基礎学力の向上を図る	小テストや週末課題を課すなどで、予習・復習を含め、家庭学習の習慣を身につけさせる。①	B	B	小テストや週末課題を継続的に実施、フォローアップすることで基礎力の定着を図った。授業でのICTの活用の仕方を工夫し、さらに効果的な授業を目指したい。
		ALTや副教材、ICTを有効活用し、授業の工夫を通じてコミュニケーションをとるための基本的な姿勢と学力を身につけさせる。①	A		
家庭	生活に必要な知識・技術の習得と問題解決能力の育成を図る	家庭科の各種検定に取り組み、ICT・板書・資料などを効果的に活用し主専攻別授業を取り入れることで、知識・技術の向上を図る。①⑱	B	B	専門分野において効果的にICTを活用しグループ学習などを取り入れ、知識・技術の向上に努める。各種検定にも取り組み、専門分野の致死・技術の定着にも務める。課題研究において地域探究に更に取り組み、地域との連携を強めていきたい。
		家庭クラブや課題研究など、地域との連携活動を通し自分の考えを広げるとともに問題解決能力の育成に務める。④⑥	A		
情報	問題の発見・解決に向けた、情報と情報技術を活用する知識と技術の習得を図る	年間授業時間の5分の2以上の実習を行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトウェアの基礎・基本的な知識と技術を習得させ、問題解決に関連したデータの収集・分析ができる力を育成する。①②⑱	B	B	生徒の理解促進に適した教科書の選定及び内容の選択を行い、メリハリのある授業展開で授業時間全体を通じた集中力の維持を目指したい。
	情報社会に主体的に参画および対応するための資質・能力の育成を図る	情報の受発信者としての法令順守およびモラルやネチケットを学び、実習時のグループワークを通して、情報社会の一員として主体的に学び合える環境を構築し育成を図る。①⑲	A		
	業務の効率化とICTコミュニケーション能力の習得を図る	ICTを効果的に活用した業務の効率化を具体的に提示し、PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、自己評価、他者評価を実施し、具体的なICTコミュニケーション能力の習得を図る。⑱⑳	B		
商業	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を重視し、進路実現に向けた職業人としての資質・能力を育成する	魅力ある授業の展開及び上級資格取得の向上を図り、商業科に入学して良かったと思える指導体制の構築を図る。①④㉔	B	A	商業科では各行事を計画的に実施し、体験内容の改善や、地域連携の充実を図った。次年度は中学生への魅力発信をさらに推進したいと考えている。
		TT学習、習熟度別学習、課外授業等をおして学習の定着を図り、さらにICTを効果的に活用して、各科目の理解度を深める指導体制を図る。①⑱⑲	A		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	生徒の学力向上をめざした学習指導の実施に努める	授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。①	B	A	デジタル採点なども進展し、採点や評価の合理性が伺えた。今年度より2学期制になったが、混乱もなく円滑に学校運営を進めることができた。課題提出や小テストを計画的に実施し、生徒の変容・成長ぶりを半期というスパンで評価することにも繋がった。ただし、タブレットを用いた授業は、単発的になってしまった。生徒に力の付くタブレットを用いた授業実践を継続的に取り組めるように模索したい。
		わかる授業を目指して、生徒が主体的に取り組むことができる教科指導の充実・改善を図る。①	A		
	学習に対する積極的な姿勢の育成を図る	各教科・学年との連携を図り、家庭学習の習慣化と内容の充実を目指す。①	B		
		個別面談等で生徒理解を深め、生活や学習活動についての確なアドバイス及び支援をしていく。③	A		
	情報機器の維持、成績処理の援助、情報発信の充実	情報機器の維持及び適切な管理に努める。①	A		
		校務支援システムの円滑な運用に努める。③	A		
		さくら連絡網の活用やホームページの更新を通して、情報発信の充実に努める。⑬⑮	A		
	生徒の学習や文化・芸術的素養の伸展を支援するため、図書館の充実に努める	図書館の環境を整備し、利用しやすい図書館にする。①④	A		
		図書館報と新刊本案内発行などの図書関連行事の活性化を図る。①⑭	A		
生徒支援	基本的生活習慣を確立させる	毎日の登下校指導時に挨拶、声かけを積極的に行い、職員の共通理解のもと、遅刻指導や服装指導に当たる。⑦	A	A	服装等は登校時の指導を継続した結果、正しい制服着用につながっていると思われる。今後も生徒の実情に即した形を模索しながら継続した指導をしていく必要がある。交通安全・薬物・情報モラル等の講習会を実施した結果、今年度も問題行動や交通事故等は低い水準で抑えられている。引き続き、交通マナー、モラルの向上を図りたい。
		学年間の連携・協力体制を強化し、共通理解・共通認識のもと全職員で服装・頭髪指導に当たる。⑧	A		
	交通マナーやモラルを向上させ、事故防止に努める	マナーアップ教室、薬物乱用防止教室、LHR等を通して規範意識の向上と豊かな人間性の育成を図る。⑧	A		
		交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。⑨	B		
保健安全	生徒の健康の保持増進を図る	保健調査及び定期健康診断をもとに個々に合わせた保健指導を行う。①～⑪	A	A	今年度、コロナ禍以降初めて体育祭が全学年一斉に開催されたがインフルエンザが爆発的に蔓延してしまいました。次年度以降も状況に応じた感染症予防と対策は必須である。特別活動部とコンセンサスを図り、開催時期等、検討の余地はある。また、様々な理由で精神的な不安を抱える生徒もあり、学校全体としてそのケアにあたるシステム作りや取り組み方を構築することが大切である。生徒の健康維持と安全な学校環境整備のために、職員間の情報の共有をさらに進める必要がある。
		感染症予防並びに拡大防止に努める。①～⑪	B		
		教育相談体制を充実させ、より良い生徒支援を行う。①～⑪	A		
	学習環境の美化及び整備に努める	生徒が安全な学校生活を送るための点検や校内巡視を行う。①～⑪	A		
		全生徒による大掃除と年2回のワックス塗りを行う。①～⑪	A		
		校内のゴミの分別と減量化を図る。①～⑪	A		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路支援	生徒個々の進路希望を実現させるためのさまざまな働きかけや支援をする	各学年の進路課題や情報を共有し、3年間を見通した進路指導の充実に努める。 ④⑤⑥	B	B	部会を実施し、各学年の進路行事や3学年の就職・進学の流れや課題等を共有する流れは継続し、改善に活かしていきたい。2学年のパス見学では、今年度のような企業見学を含めた実施は、生徒のより良い進路選択と職業観の育成にもつながる契機となると考え、次年度以降も選択の幅を広げる工夫につなげたい。就職については、本校で人気のある企業では、校内での競争となるため、3年後を見据えた指導が不可欠である。進学では、年内入試の傾向が増加しているため、学校全体で指導しやすい体制づくりを工夫していきたい。
		各学年に応じた進路ツールや進路ガイダンス及び講演会の実施と面接指導や課外授業などの充実を図る。 ④⑤⑥	A		
	生徒が自主的に職業や進路先を選択できるよう必要な能力・態度を育成する	看護体験やインターンシップ等を積極的に実施し、職業意識の育成等にかかる指導の充実を図る。 ④⑤⑥	A		
		進路資料の充実と利用しやすい環境づくり、及び進路希望に応じた適切な進路情報の提供を行う。 ④⑤⑥	B		
学習企画	3年間を見通した「探究の時間」の進め方の構築を図る。	多様な進路実現に向け、将来に生かせる探究学習の充実を図る。 ④⑤⑥	B	B	総合的な探究の時間では、3年間を見通した全体計画をより具体化するとともに、協働的な学びとICT活用を一層充実させる。また、アンケート調査やインタビューなどの実践的な探究活動に主体的に取り組む生徒を育成する。高大連携・地域連携については、模擬授業や講演会に加え、公開講座への参加生徒数の増加を目指す。キャリア・パスポートは、行事ごとの実施にとどまらず、継続的かつ効果的に活用できるよう工夫する。
		大学公開講座の参加推進と地域連携を図る。 ⑤⑥⑫	B		
		キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。 ⑫	B		
渉外	PTA行事への保護者の参加を積極的に呼びかけ、家庭との連携を密にする。	PTA役員会・PTA総会・学年PTA・PTA関東大会及び全国大会への積極的な参加を呼びかけながら、開かれた学校づくりに努める。 ①～⑩	B	B	次年度も引き続き、保護者と連携しながら、PTA活動を活性化していく。
特別活動	文化部・運動部及びホームルーム活動の活性化に努める	部室や練習場の清掃、挨拶の励行を通し、生徒の意識改革を促す。 ⑦⑩⑪	A	B	御城祭の一般公開や全校での体育祭の開催、学年ごとの野球応援など各行事を工夫しながら実施してきた。各行事ごとに生徒の主体的な活動を見ることができた。しかし、各行事のたびに周知の遅れや校内の調整、気象条件への対応など、運営面の課題も多かった。これらの反省を踏まえて、次年度は生徒会や実行委員の主体性をさらに高め、職員間の共有、HRとの連携を密にして、行事を通して学校全体の活性化を図ってきたい。
		様々な大会へ積極的に参加して、活気ある部活動を目指す。 ⑪	B		
		生徒会行事等を通して自主的な活動によりHRの連帯感を高める。 ⑩	A		
		生徒会とHRの連携を密にしてLHRの意見を反映し学校の活性化を目指す。 ⑩	B		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立を目指す	時間厳守の意識を育み、規範意識を高めることで、安心して学校生活を送ることができる秩序ある環境を整備する。 ⑦⑧	A	A	全ての生徒が落ち着いた学校生活を過ごせるように、生徒の様子の把握に努めた。学校生活に馴染めない生徒には、各担任、副担任が素早く対応し教育相談などと連携することができた。次年度の課題としては、生徒の進路選択に応じた学力を付け、資格取得や進路実現に向けて主体的に取り組むことができるようにしたい。
		挨拶を始めとするコミュニケーション能力を高め、より良い人間関係を築く力を育む。 ⑦⑧	A		
	基礎学力の向上を目指す	授業を中心とした学びを核とし、個別面談やキャリア教育を連携させることで、生徒の学習意欲を高め、主体的な学びへと導く。 ①③④	B		
		ICTの効果的な活用を図り、各学科の特色を活かした課題を通して、生徒の学びを深める。 ①⑤	A		
	豊かな心の育成を図る	部活動や探究活動などの教科外活動を充実させ、他者との協調を図りながら自ら考え行動する意識を高める。 ⑩⑪	A		
		教室の環境や生徒間の人間関係に配慮し、落ち着いて学校生活ができる環境を整える。 ⑩	A		
第2学年	生活指導の徹底と心豊かな人材の育成	服装頭髪指導、遅刻指導、清掃指導を徹底し、落ち着いて学校生活が送れる環境を整える。 ⑦⑧	A	A	学科やクラスに関係なく、学年の生徒を学年の教員全員で見守ることができた。そのためか、今年度の在籍者数は変動することがなく、問題行動もほとんどみられなかった。修学旅行等の学校行事を通じて、集団生活における他人とのかかわり方や規範意識を向上させることができた。また、上級学校・企業見学会を通じて、自らの進路について意識するようになった。その一方で、学習に取り組む姿勢があまり見られず、基本的な学力が身につけていない生徒も見られる。
		学校行事や部活動を通して、自ら考え動くことができる人材となれるように指導する。 ⑩⑪	A		
		規範意識を養い、人とかかわり方を学びながら集団生活の中で自身の役割を果たせるよう支援する。 ⑧⑩	A		
	進路希望を明確化し、その実現への努力を促す進路指導	進路別パス見学会や進路ガイダンスを通して、適切な進路選択に必要な進路学習をさせる。 ④⑥	A		
		生徒との個別面談を密に行うことで生徒理解を深め、個々の生徒がライフプランを真剣に考える支援をする。 ④⑤	A		
		保護者面談資料などを通して、進路情報を保護者に適宜提供する。 ⑬⑭	A		
	授業を中心に据えた学習指導	授業への積極的な取り組みを促し、さらに、授業を活かすための家庭学習の定着を図る。 ①③	A		
		学年と授業担当者が連携して、特に学習の遅れている生徒に細やかな指導をする。 ①③	B		
		大学進学希望者向けの課外授業を実施して、授業の学習内容を深く理解できる場を提供する。 ①⑤	A		
第3学年	学力の向上を図り、個々の生徒の進路実現を目指す	家政・商業・普通科それぞれの学科の特性に合わせた指導を行い学力の向上を図る。 ②	A	A	進路実現のために個別面談などを実施し、きめ細かい指導ができた。特に面接指導や小論文指導では学年外の先生方に協力して頂いたことで成果をえることができた。年内入試が増加しているので、公募・総合型推薦入試を活用していくべきである。生徒指導に関しては、進路決定後に欠席や遅刻等が増えたので、学年全体で指導を行う必要がある。
		各種のガイダンスや個別面談等を実施し、個々の適性能力に応じた進路希望の実現を目指す。 ④⑤	A		
	生徒指導の徹底及び基本的生活習慣の充実を目指す	保護者との連携を密にし、基本的習慣の充実に努める。 ⑦⑧	B		
		社会のルール遵守し、モラルの向上に努める。 ⑦⑨	B		
		生徒支援部との連携を図り、日々の生活を通してよりよい高校生活の実現を目指す。 ⑦⑧	A		

※ 評価規準: A:十分達成できている B:達成できている C:不十分である D:できていない